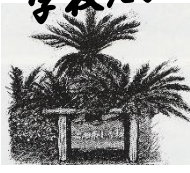


学校だより



「チャレンジ! なかよし! 進んで学ぶ 東の子」

リテツのお

5月号

令和5年4月28日  
横浜市立高田東小学校

学校HP: <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/takatahigashi/>

## 子どもの姿を感じとって

校長 小田 和宏

1年生と6年生が手をつないで体育館に入ってきます。大きな拍手が体育館の中に響き、子どもたちの笑顔がひろがりました。これは、4月21日、「一年生を迎える会」のスタートの場面です。今年度初めて、1年生から6年生までがそろって顔を合わせた瞬間でした。

この会に向けては、それぞれの学年で、昨年度のうちから準備を進めてきました。2年生は、折り紙でつくったプレゼントを贈りました。高田東小学校の新しい仲間へのやさしさと、ひとつお兄さん、お姉さんになった喜びが詰まっているように感じました。6年生は、学校の紹介動画をつくりました。委員会ごとに紹介する場所を分担し、どんなふうに伝えるか工夫していました。3年生は、はじめの言葉を、5年生は全校からの歌のプレゼントで指揮者を、4年生はおわりの言葉を担当しました。

代表児童の「困ったことがあったら、いつでも聞いてください。」と語りかける口調は、温かい気持ちが会場全体に伝わるものでした。全校からの歌は、「勇気100%」でした。子どもたちの発した声が合わさって、歌っているみんなが元気になっていったように感じました。

子どもたちは、学校生活の中で様々な姿を見せてくれます。意識、無意識かどうかは別にして、そこには、子どもたちの思いがあると感じます。その思いを、姿と一緒に感じ取ったり共有したりする時間をたくさんもちたいと思っています。

黒板をじっと見つめる姿だけを見ていると、どんなことを考えているのか、なかなかわかりません。でも、その後「あっ!」と何かひらめいたようにノートに向かう姿を見た時、その子の思考の様相を感じることがあります。問いに対して、手を挙げた姿から、ひらめいた喜び、自分を見てほしいという願い、自分でも答えられるかもという勇気など、それぞれの思いがあるのだろうと感じます。

先の「一年生を迎える会」の中で、「一年生は、できることがたくさんあります。自分でできることまで手助けすることは必要ないです。でも、困っていそうだったら、『何か困ったことある?』と聞いてあげてください。」と話をしました。そう、一年生は、つい先月まで、園の中で一番頼れる一番年長の人だったのです。心理学者 故 河合隼雄氏は、著書の中で「小学一年生の道徳性の方が、親や教師を上まわることさえあるようにみえる。」と言っています。

子どもたちは、安心できる場所を拠点にして、少し背伸びするところに成長が生まれます。その「場所」は、具体的な場所の場合もあり、心の拠りどころの場合もあるかと思います。子どもたちの安心を、学校だけで担うのではなく、家庭と、地域と協力して、「少しの背伸び」を支えていきたいと思っています。